

## 第25回日本文化月間

### 1 ページ

#### ポポヴァ副大統領からのメッセージ

本年2014年は、日ブルガリア外交関係再開55周年、また日本文化月間が第25回目となる年であります。

この二つの意義深い記念日のお祝いに参加できることは、私のにとって大きな喜びです。この場をお借りして、本年の日本文化月間にお誘いいただいたこと、また私の後援のもと開催できることについて、小泉大使にお礼申し上げます。ブルガリア市民を代表して、このような大変印象的な数々の文化行事によって、我々が日本芸術の洗練さ、調和を感じる機会をいただいたことに対しても感謝の意を表したいと思えます。

ブルガリアにおける日本文化月間は、良き伝統、また、我々両国民の将来にわたる精神的結びつきへの大いなる可能性をたくみに表現しています。この二国間外交関係再開の周年に日本政府の招待により実現した日本への訪問中、様々な分野、特に文化、科学、教育分野における協力への相互意思の確定を受け取ったことを大変嬉しく思っております。

世界的なアーティストであるヴァスコ・ヴァシレフ氏、假屋崎省吾氏の素晴らしいパフォーマンスによって開幕した第25回日本文化月間では、多岐に亘った様々な行事の紹介を行っています。これは、ブルガリア市民の皆さんに日本文化・伝統の価値に対するより深く理解してもらおうという運営者の意気込みが反映されているのでしょう。

人を惹きつける芸術との出会いを通じて、ブルガリアと日本の皆様が、世紀に亘る知恵、成果そして我々の友好の未来への夢を知ることができるあらゆる機会を、喜んで応援したいと思えます。

ブルガリア共和国副大統領 マルガリータ・ポポヴァ

### 3 ページ

#### 小泉崇在ブルガリア日本国大使挨拶

在ブルガリア日本大使館が1990年以降、毎年秋に開催している日本文化月間は、皆様のご協力のもと、本年25回目を迎えることとなりました。この四半世紀の間、ブルガリアの皆様素晴らしい日本文化に触れる機会として、この文化月間の行事を継続してこられたことは、私たちの誇りとするところです。特に今年は、日本とブルガリアの外交関係再開55周年という節目の年を祝賀する意味を込め、文化月間のオープニング行事であるいけ花展示会「假屋崎省吾の美と和の世界」を例年より早く6月に開催致しました。また、書道のワークショップや現代日本ダンス・パフォーマンスなどを実施しております。

これまでと同様、10月から11月にかけても盛りだくさんのプログラムを予定しております。日本の伝統楽器尺八とソフィアカルテットとの共演、ソフィア・フィルと日本人音楽家の共演、ピアノとフルートのコンサート、沖縄民謡、日本舞踊、日本食紹介事業、55周年記念桜の植

樹、切り絵、手鞠、書道、陶器、押し花の展示会などです。ブルガリアにおける秋の恒例行事の一つとして、着実にブルガリアの皆様の中に浸透してきた本行事を通じて、日本とブルガリアの間の友好関係をさらに発展させ、様々な分野での民間交流が促進されれば、これほど嬉しいことはありません。

本年も昨年に引き続き、文化月間の諸行事を当地日本関連団体を取りまとめる傘機関として発足した「日本友の会」と協力して実施していくことになりました。ブルガリアにおいて長年日本文化に関わられてきた方々が主体者となって日本文化の発信に貢献して下さることを大変嬉しく思います。この文化月間を通じて、ブルガリアの皆様が日本の文化、習慣そして日本人が大切にしている価値観についての理解をより一層深められ、日本とブルガリアの関係が更に強固なものとなることを期待して止みません。

最後となりましたが、この場をお借りして、「第25回日本文化月間」プログラムにメッセージを寄せてくださったマルガリータ・ポポヴァ副大統領に御礼申し上げますと共に、文化月間開催に当たって多大なご協力を頂いたブルガリアの各文化機関、関係企業のご支援に対し、心から感謝申し上げたいと思います。

駐ブルガリア日本国特命全権大使 小泉 崇

## 5 ページ

ペタル・バシカロフ日本友の会会長挨拶

日本の友の皆様

日本大使館が主催する第25回日本文化月間の開催にあたり、日本友の会を代表して、挨拶をさせていただきます。

今年の日本文化月間は、ブルガリア・日本外交関係再開55周年を記念して開催されることを嬉しく思います。

この日本文化月間は、我々の文化的生活にとって切り離せぬ一部、また伝統となっていることは疑いようがなく、日本文化とブルガリア・日本の友情における真の祝日となったといえるでしょう。日本国民が和と美に対する永遠の追求の中で培われた芸術感覚や精神性への知識を増やしてくれる月間の多岐に亘る様々な行事を楽しみにしております。

この場をお借りして、小泉大使、日本政府、この意義深い文化行事の企画・運営に貢献された全ての人にお礼を申し上げたいと思います。日本友の会を代表して、我々のパートナーシップに対する感謝を表明するとともに、全ての参加者の日本文化月間における成功、そして今後のブルガリア・日本の友好関係の発展をお祈り申し上げます。

日本友の会会長 ペタル・バシカロフ

7-9 ページ

6月～9月開催行事

### 1. 第25階日本文化月間オープニング行事

#### 假屋崎省吾いけ花展示会「美と和の世界」

第25回日本文化月間のオープニング行事として、6月23日、假屋崎省吾いけ花展示会「美と和の世界」オープニングをソフィア市国立文化宮殿で、多くの来賓を得て開催しました。また、本行事は日本とブルガリア外交関係再開55周年を祝賀する意義を込め開催したものです。オープニングセレモニーには假屋崎氏の友人でもあるバイオリニスト、ヴァスコ・ヴァシレフ氏が友情出演し、同氏の演奏するバイオリンの音色に合わせ、いけ花のデモンストレーション等が行われ、大きな反響を得ました。

ダイナミックないけ花を披露いただいた華道家假屋崎省吾氏は、「美をつむぎ出す手をもつ人」と評され、天皇陛下御在位10周年記念式典で花の総合プロデュースを行った他、上海万博やローマ国際映画祭等、世界各地でご活躍されています。

展示会は29日まで開催され、一週間足らずで4000人以上が訪れるなど大きな反響を呼びました。

### 2. 「書道ワークショップ」

6月21日及び25日、第25回日本文化月間の一環としてウォーター・タワー・アート・フェスト主催「書道ワークショップ」がエキスポ・バニャ・ソフィアのロカギャラリーで開催されました。

本ワークショップのため、日本から書道家である上田晋氏にお越しいただきました。ワークショップでは、ブルガリアの詩を日本語に訳したものを参加者が大きな和紙に大きな筆で一文字ずつ記したり、半紙に好きな言葉を書いたり、老若男女を問わずブルガリア市民が書に触れ、書を感じる良い機会となりました。

### 3. ダンスパフォーマンスグループ MuDA による公演

8月24～26日まで、国立文化宮殿公園内サマーステージ「One More」劇場にてダンスパフォーマンス MuDA によるブルガリア初公演が行われました。

MuDA はあらゆるジャンルのソロアーティストが集まり、2010年の夏に京都で結成され

ました。あらゆる限界を超え、未だ知られざる領域に到達することを目標としています。精神、物理、宇宙、儀式等のテーマを用いて、全く新しいダンスのジャンルといえるユニークなパフォーマンスを皆様にお届けしました。

ブルガリアの他にもヨーロッパツアーの一環としてクロアチアでも開催されました。

#### 4. Aniventure2014

9月6、7日にパラダイスマールのソフィアイベントセンターにて、アニメ・マンガクラブ「NAKAMA」による第9階日本現代・伝統文化フェスティバル「Aniventure」が開催されました。

3000人以上のアニメ・マンガファンが二日間で、様々な講義、デモンストレーション、ブース、ワークショップ、コンクールなどを楽しみました。同時に着物の着方、ゲーム、アニメミュージックビデオ、メイドカフェなどの同フェスティバルの名物行事にも高い関心が寄せられました。

同フェスティバルのメインイベントであるコスプレ大会の参加者は1000人を超え、今回初めて「日本国大使賞」が設けられました。

10月～12月開催行事

10-28ページ

#### 5. 切り絵・手鞠展示会

日時：10月9日（木）18：00～ オープニング

展示期間：10月9日（木）～10月26日（日）

場所：国立民俗博物館ゲスト展示会ホール

#### 手鞠デモンストレーション

10月11日（土）10時30分

#### 切り絵ワークショップ

10月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）10時～13時、14時～16時

主催：在ブルガリア日本大使館、日本クラブ「絆-ヴァルナ」、アニメ・漫画クラブ「NAKAMA」

協力：国立民俗博物館

オープニングのみ招待状

※その他の展示期間—通常の博物館の入場料大人3レヴァが必要となります。

今回は、日本の応用芸術である切り絵と手鞠の合同展示会をご覧ください。どちらも日本の応用芸術であるというだけでなく、どちらも日本文化への深い関心をもつ二人のブルガリア女性による作品の展示であるという共通点があります。

1400年の歴史がある切り絵は、中国から日本に伝わり芸術の領域まで完成されました。最初は寺院の装飾のために用いられてましたが、後に型紙や着物の柄が生み出されたことにより、主要工芸の一つとなりました。寺院などの建物の装飾や着物の柄以外にも、わびを感じさせる日用品、日本の古典文学、絵はがきやカレンダー、江戸いろはかるた、アニメ・漫画のイラストなどに用いられています。

今回の展示会ではせんが協会の唯一の非日本人であるリナ・パパドプル氏の作品を展示します。2012年にはじめてブルガリアで切り絵を紹介し、日本文化月間の一環である展示会やワークショップにより多くの日本文化愛好家を魅了しています。

手鞠は今から500年から600年前に中国から日本に伝わった民芸品です。綿もしくは絹の布を用いて手作業でボールの形を作り、刺繍を施した後、綿の糸で結びます。気持ちを込めて作られた手鞠は友情と尊敬を象徴するかけがえのない贈り物として使用されてきました。ラリツァ・ドネヴァ・コネヴァ氏は日本手鞠協会の一員であり、高等科の修了証を有しています。2001年にヴァルナの工科大学産業デザイン学部を卒業しました。幼少の頃から手作業が好きで、日本への関心から日本以外ではあまり知られていない伝統工芸に関心を持ち始めるようになり、日本の伝統工芸のコレクターとして、なかでも手鞠集めに情熱を注ぐようになりました。彼女が手鞠を自身で作成し始めてからは約6年になります。

## 6. 沖縄民謡コンサート

パブリケニ市

日時：10月14日（火）時間

場所：調整中

主催：在ブルガリア日本大使館、パブリケニ市

ルセ市

日時：10月15日（水）時間

場所：調整中

主催：在ブルガリア日本国大使館、ルセ市

沖縄を中心に主にライブ活動、子供達に沖縄民謡を通して歌う楽しさを伝えるワークショップ、沖縄民謡の背景や解釈を探るラジオ番組の制作等で活躍して田辺由貴氏をお迎えし

て、沖縄民謡コンサートを開催します。同氏は、ブルガリアンヴォイスに傾倒しており、今回ブルガリアでの沖縄民謡公演実現に至りました。  
沖縄で座興の最初に歌われるめでたい歌、「かぎやで風」、エイサー（沖縄の盆踊り）で歌われる「仲順流れ」、「久高万じゅう主」などの他様々な沖縄民謡をお楽しみいただけます。

#### 「沖縄とブルガリアの同じ声」

民謡の最も重要な構成要素、声、歌声。

この要素において沖縄民謡とブルガリア民謡に通じるものがある。

強く、一つの高さでまっすぐ伸ばされる声。

歴史・地理・音楽的背景のちがう民族に伝わる歌だから、当然

メロディ・リズム・和声・歌詞など、違っているポイントのほうが多い。

しかしまったく違う民謡の中に、浮かび上がる同じ発声。

遠く離れた国にある同じ声。

そのわけは

人が生きる中で、このような声を出し、歌う必要があったからでしょうか。

何から何まで違う国と国に、同じ声があるということは

これらの声が

根源的に人間に必要とされていた証しだと私は想像している。

私は、この声に心魅かれる。

#### 7. 生け花展示会・ワークショップ

日時： 10月18～24日

オープニング：10月18日（土）18時30分

場所：ブラゴエフグラッド市ブルガリア・アメリカン大学学生センター「Amerika for Blugaria」

主催：在ブルガリア日本大使館、生け花クラブ「草雅」、ブルガリア・アメリカン大学  
入場無料

草月の生け花は、いつでも、どこでも、誰にでも、世界のどこでも、どんな素材を用いても作り上げることができます。

これは、父のてしがはらひろしから四代目家元を次いだてしがはらあかね氏による、草月学校の初心者向け教科書に掲載されているメッセージです。前衛花スタイルを生み出し、てしがはらそうふうは1926年に日本で最も現代的な草月流を創立しました。自身の父の弟子として、若干18歳にして伝統の繰返しに藩士、自身のアイデンティティの継続というスタイルを表しました。7年後草月流は華道の主流となり、そうふうは花のピカソ

として有名になりました。生け花クラブ草雅は、草月流の流れをくんでいます。今年の日本文化月間では、生け花の現代化に焦点をあてた展示をお見せします。

#### 8. 外交関係再開55周年記念桜植樹セレモニー（日本スポーツデー：調整中）

日時：10月25日（土）もしくは11月1日（土）

場所：ソフィア市サウスパーク

主催：日本友の会

協力：在ブルガリア日本国大使館、ソフィア市

入場無料

二国間の外交関係、文化交流関係の周年の機会に、日本友の会は、ブルガリアにおける日本の精神のシンボルである桜の植樹を行います。外交関係再開55周年、第25回日本文化月間は我々の安定した関係と伝統を物語っています。桜の枝とバラを織り込んだイメージは日本友の会のシンボルです。日本友の会はブルガリアにおいて日本文化、伝統、現代性の普及を行っている40以上の機関を束ねています。二国間の活発な関係構築に特に貢献にある人物も所属しています。今回の植樹により、桜がブルガリア全土でより日本の精神を象徴づけるものとなり、また両国の国民と文化を和へと導く道となれば幸いです。

詳細は10月以降、大使館HP(<http://www.bg.emb-japan.go.jp>)でご確認下さい。

#### 9. ピアノとフルートのコンサート

日時：10月27日（月）18時30分～

場所：プロブディフ市歴史博物館「統一」ホール

主催：在ブルガリア大使館、ミュージックティッシモ基金、プロブディフ市

第5回国際フェスティバル「プロブディフ市打楽器の家の音楽週間」の一環としてコンサートを行います。

アヤミ・ファイトは活発にコンサートを行っている日本の有名なピアニストです。東京東京生まれ、2003年にピアノ課を卒業。ヨーロッパ、日本でマルグルス教授、ヴァイヘル教授、アルニム教授等著名な音楽家に従事する。東京ニューシティオーケストラ等とのフィルハーモニーとの共演も多く行っている。

ミラ・パブロヴァ氏は、L. ピッコフ音楽学校、P. ブラディゲロフ音楽学校のフルート課を卒業。聖オブレテノフコンクール優勝、ゴールデンディアナコンクールで2度優勝、ベルギー等で開催された国際コンクールでも金賞や審査員特別賞などを受賞している。1995年から新交響楽団やソフィア交響楽団のソリストとして活躍し、2003年からはFMラジオ交響楽団で活動している。このようにソリストとして活動するとともに、芸術分野

での創作活動にも従事している。2010年には、プロブディフ市の打楽器の家における音楽週間国際フェスティバルを発案・設立し、同フェスティバルは2012年に、国営ラジオによるその年の音楽家ランキングにおいて、音楽プロジェクト賞を受賞した。パプロヴァ氏自身も2013年にその年の音楽マネージャー賞を受賞している。

エヴァ・カルテットは1996年に指揮者のミレン・イヴァノフにより、設立されました。ゲルガナ・ディミトロヴァ、ソフィア・コヴァチェヴァ、エヴェリナ・スバソヴァ、ダニエラ／ストイチュコヴァというブルガリア女声で最も優れた4人の若いソリストによって構成されています。彼らは、世界的に有名な女声民謡合唱団「ブルガリアン・ヴォイスの神秘」から選ばれました。4名がそれぞれ、民謡が有名な地域の出身で、民謡学校にて音楽教育を受けています。エヴァ・カルテットは彼らのために書き下ろされた真正正銘の民謡を演奏します。協会スラブ音楽も彼らのレパートリーの一つです。

#### 10. 日ブルガリア外交関係再開55周年記念～育桜会による桜植樹式

##### 1. ヴェリコ・タルノヴォ市

日時：10月29日11：00～

場所：未定

##### 2. ハスコヴォ市

日時：10月31日11：00～

場所：ハスコヴォ市ヤマチャ公園

主催：特定非営利活動法人（NPO） 育桜会

協力：在ブルガリア日本大使館、駐日ブルガリア大使館

日・ブルガリア外交関係再開55周年を記念して、世界各地で桜の苗木の寄贈を行ってきた育桜会が日本の桜計150本をヴェリコ・タルノヴォ市及びハスコヴォ市に寄贈します。同会は10年前の2004年に日本から送付した「そめい吉野」の苗木をバナギリシテ市50本、カザンラク市に100本寄贈している他、2009年にも外交関係再開50周年を記念して、ソフィア市に桜の苗木を寄贈しており、ブルガリアにおける桜の寄贈は今回で3回目となります。また、10月29日のヴェリコ・タルノヴォ市での植樹の後、有名なブルガリア出身の力士であり、現在親方となった琴歐洲の生家があるジュリュニツァ村庁舎前の公園にもヴェリコ・タルノヴォ市に寄贈したうちの5本の桜を植樹します。

### 11. 「日本の伝統、成功への鍵」展

日時：11月6～30日

オープニング：11月6日（木）18時半

場所：ソフィア市国立美術館、王座黄金の間

主催：アマテラス基金、在ブルガリア日本国大使館

オープニング招待状あり

※オープニング以外の日には、通常の国立美術館入場料（大人6レヴァ）が必要です。

日本の陶磁器に独自のスタイルを確立した、西浦家の陶器コレクションの展示会を行います。西浦焼きという名で世界中で知られている陶器です。洗練された美しいかびん、茶道用茶器等が特徴です。同コレクションは国宝とされています。

西浦焼きの展示とともに、西浦家の一員で著名な書道家である西浦喜八郎による現代書道を紹介することで、日本の名誉をもって、伝統を守り、それを世界の財産へと転じた発展する西浦家をお見せ致します。

オープニングでは、西浦喜八郎氏による書道デモンストレーション及び西浦焼きの短い解説が行われます。

### 12. 日本映画上映会

日時：11月10日（月）～17日（月）

場所：演劇・映画芸術アカデミー

主催：在ブルガリア日本大使館、国際交流基金、NATFIZ

2000年代の邦画コレクションから8つの映画をお届けします。

#### ① 笑う蛙（11月10日（月）18時半～）

黒沢一平は勤務していた銀行から大量の現金を盗み、別居している妻、りょうこの元へと逃げる。平山ひでゆき監督が夫婦の愛の形を描く。

2003年横浜での第24回映画祭にて、本映画は最優秀監督賞、最優秀俳優賞、助演女優賞、最優秀芸術賞を受賞する。

#### ② 青い青春（11月11日（火）18時半～）

阪本順治の『王手』『ビリケン』の脚本・助監督を務めた豊田利晃の3本日の長編映画。

人気漫画家、松本大洋の作品の初映画化。閉塞感を抱きながら退屈な高校生活を過ごす九條（松田龍平）や幼馴染みの青木（新井浩文）ら新3年生は、卒業式の校舎の屋上で柵の

外枠につかまって手を何回たたけるかというベランダゲームをしていた。これは、勝者が学校を仕切るという伝統のゲームであるが。。

③ ・仁義なき戦い/謀殺（11月12日（水）18時半）

深作欣二によって名高いシリーズの12作目。本作品は、これが初監督となる橋本一の手による。陰謀、殺人、権力との戦いのなかで見られるアンダーグラウンドでの信条を描く。

④ 透光の樹（11月13日（木）18時半）

映像制作プロダクションの社長・今井郷は、仕手で訪れた石川県鶴来で、若い頃に取材した刀鍛冶・山崎火峯の娘・千桐と25年振りに再会する。センチメンタルな深い愛の物語。

⑤ 犬猫（11月14日（金）18時半）

東京近郊、静かな街の一軒家。写真の勉強をするため中国へ留学する友人アベチャン（小池栄子）の、留守宅を預かることになったヨーコ（榎本加奈子）。そこへ、同棲中の恋人・古田（西島秀俊）の家を出てきたスズ（藤田陽子）が転がり込んできた。幼なじみとはいえ、ヨーコとスズはあまり仲がよくない。男の趣味が同じで、ヨーコの好きな人はいつもスズがとってしまってきたからだ。ひょんなことから一緒に暮らすところになった対照的な女の子の日常を優しく丁寧に綴る。

⑥ 松ヶ根乱射事件（11月15日（土）18時）

90年代初頭の田舎町で巻き起こる騒動と、双子の兄弟の葛藤、彼らを取り巻く人間模様を描くブラックコメディ。事件などない静かな町、松ヶ根で畜産業を営む鈴木家の息子、光太郎（新井浩文）は警察官、双子の兄・光（山中崇）は気まぐれに家業を手伝っている。ある日、松ヶ根にやってきたカップル・西岡（木村祐一）とみゆき（川越美和）の登場を機に、この町のバランスが微妙に崩れていく。

⑦ パッチギ! Love & Peace（11月16日（日）18時）

愛する息子の病気を治そうと奔走するアンソン（井坂俊哉）と妹のキョンジャ（中村ゆり）を中心に、在日朝鮮人として生きる家族を描いた人間ドラマ。監督は『パッチギ!』の井筒和幸。

⑧ 14歳（11月17日（月）18時半）

映像ユニット「群青いろ」の第16回PFFスカラシップ作品。監督・主演は廣末哲万、脚本は高橋泉が担当。14歳の頃に受けたトラウマを癒せないままの大人と14歳の子供が、交流することで生まれるかすかな希望を描く。自主映画『鼻歌泥棒』に続き、本作でもロッテルダム国際映画祭2007最優秀アジア映画賞に輝いた。

### 13. 日本舞踊紹介

日時・場所：11月半ばで調整中

主催：日本ブルガリア経済委員会、在ブルガリア日本国大使館

主催：日本ブルガリア経済委員会、日本国大使館

助成：東京倶楽部

入場：要招待状

吾妻流師範、吾妻聖香（あづませいか）さんにお越しいただき、美しく華やかな舞を紹介いたします。吾妻聖香さんは、師匠である吾妻君香（あづまきみか）の元で三歳から舞踊を習い、6歳で鶴岡八幡宮舞殿にて初舞台を飾りました。25歳で名取り（プロ）になり、現在は吾妻流の師範として、弟子の稽古、舞台、奉納舞踊などを努め、静の舞、鷺娘などの女形の舞踊を得意とする、若手の第一人者で、その舞踊は高く評価されています。吾妻流は、江戸時代に栄えた市村座の振付師であった、吾妻東蔵によって創設された約200年の歴史と伝統を誇る流派です。今回は、日本舞踊や衣装、鬘などの解説を加えつつ、華麗なる踊りをご披露致します。

詳細は10月以降、大使館 HP (<http://www.bg.emb-japan.go.jp>) でご確認下さい。

### 14. 和食文化紹介プログラム

日時：11月15日（土）

場所：Grand Hotel Sofia-Triaditza 1 & 2 Conference Rooms

主催：農林水産省（MAFF）

協力：ブルガリア大使館

入場：無料(要事前登録及び参加証)

世界無形文化遺産に認定され、ブルガリアでも寿司などで人気の高い和食文化紹介のデモンストラーションと試食・試飲会を行います。今回和食を紹介する齋藤章雄（さいとうあきお）料理長は、2001年シンガポールグルメサミット日本代表であり、マレーシア、中国などの和食店の指導の経験がある方です。現地食材を使った伝統的な和食の他、同料理長は、ヨーグルトを使用するレシピを開発した経験があり、ブルガリアのヨーグルトを用いた皆様に親しみやすい日本食レシピの紹介も行う予定です。料理に合う日本酒、梅酒、日本茶なども提供いたします。また、日本料理の基本であります「感謝の心」「おもてなしの心」も紹介します。

※日程は変更の可能性があります。日時・場所は最終決定後、日本大使館のHPで通報致しますので、そちらをご確認下さい。

#### 15. 現代日本陶磁器展

日時：11月18日（火）～11月28日（金）

オープニング：11月18日（火）18：30

場所：ブルガリア文化省ギャラリー「スレデツ」

主催：アマテラス基金

協力：ブルガリア文化省、在ブルガリア日本大使館、

現代日本陶磁器展のコレクションは、アマテラス基金所蔵のもので、深井けいこ氏・ダニエラ・トドロヴァ氏によった収集されたもの。フランス、ルーマニア、米国、日本で展示したことがあり、今年はブルガリアでのお披露目となる。

展示される25点の作品には、いずれも古くから発展してきた日本の古代陶磁器に特徴づけられる高度で珍しい技術が用いられている。作者は、河端けんたろう、竹内浩三、田上しんや、新里明代、田淵太郎、橋本真智子。

#### 16. 押し花展示会

日時：11月23日～30日（日）

オープニング：11月23日（日）16：00～

場所：ブルガリアホール第一バルコニーホワイエ

主催：ギャラリー「ニルバーナ」

協力：在ブルガリア日本大使館

伝統文化である押し花は、1000年以上の歴史があります。良き旅や恋人との思い出を長く持ち続けるため、枯れた花を集めたことに由来します。芸安土桃山時代や江戸時代、ちょうど日本が鎖国状態にあったことが、伝統芸術に良きを与え、芸術としての押し花が生まれました。押し花は、細部に到るまでの正確さと、素材への配慮が必要とされます。花や草を乾かし、和紙の上に置きます。

展示会の作者であるヴァレンティナ・ガネヴァーシュトレヴァは長年にわたる新体操の国代表選手であり、新体操のトレーナーとして、長年日本の熊本で働いています。日本で彼女は、押し花に出会い、創作を始めました。彼女のすべての作品は日本で採取された花、根、こけ、その他の草木などが使用されています。彼女の想像は美しい形となって現れ、自然の風景、歴史的・文化的な名所などを表現しています。日本、ブルガリア、カナダ、フランス、ドバイ、南アフリカなどにコレクターが彼女の作品を所有しています。

#### 17. 日本人音楽家とソフィア・フィルの共演（ソフィア・フィル定期演奏会）

日時：11月23日（日）17：00～

場所：ブルガリアホール

主催：ソフィア・フィルハーモニー

協力：在ブルガリア日本大使館

福井史枝氏は、元在ブルガリア大使夫人としてブルガリアに滞在して以来、ブルガリア全土でコンサートを行ってきました。また、同2006年、第14回音楽と地球国際コンクールデュオ部門第1位受賞、あわせてここ10年以上誰も受賞していない特別賞 Universal Musician(世界の音楽家)の称号を授与、翌2007年には、ブルガリア国営ラジオ放送管弦楽団との共演に於いて、そのプロフェッショナルな演奏に対し表彰状授与しています。中村太地氏はウィーンを中心に活動しており、2011年ネディヤルカ・シメオノヴァ国際コンクール（ハスコヴォ）で第1位受賞、2013年第2回ヴァスコ・アバジエフ国際コンクール（ソフィア）最高位をはじめ、若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール、ハチャトリアン国際コンクール入賞等国際コンクールで数多くの賞を獲得しています。また、2014年より、ウィーン室内管弦楽団のメンバーとしても活動を行っています。両名とも、過去にソフィア・フィルとの共演歴があり、今回ブルガリア外交関係再開55周年の機会に、ブルガリアにゆかりのある両名とソフィアフィルの共演が実現しました。また、冒頭、NHK交響楽団の正指揮者である日本人作曲家、外山雄三作曲による管弦楽のためのラブソディもお楽しみいただけます。

#### 18. 国営ラジオ児童合唱団及び国立音楽アカデミーオペラ課学生によるコンサート

日時：11月25日（火）19：00～

場所：国立音楽アカデミー内コンサートホール

主催：東海大学同窓会

協力：在ブルガリア日本大使館

ヴェネツィヤ・カラマノヴァ指揮者率いる国営ラジオ児童合唱団による、日ブルガリア外交関係再開55周年記念、共催者であるブルガリア東海大学同窓会設立20周年記念コンサートを行います。コンサートには、同合唱団の元メンバーや、現在国立音楽アカデミーのオペラ課に所属している学生が参加します。声楽学部長のミラ・デュルゲロヴァも同合唱団の出身です。

美智子皇后殿下や東海大学学長松前達郎氏作詞曲を含む日本とブルガリアの作曲家の代表曲を演奏します。オペラ課の学生によるアリアもお聴きいただけます。

#### 19. 尺八とソフィアカルテットの共演

日時：11月28日（金）19：00～

場所：ブルガリアホール内Chamber hall

主催：在ブルガリア日本大使館、

協力：ソフィア・フィルハーモニー

入場：要招待状

#### 19. 尺八ソロコンサート

日時：11月29日（土）18：00～

場所：キュスティンディル市劇場

主催：在ブルガリア日本大使館

協力：キュスティンディル市

国際的に活躍する尺八演奏家入江要介氏と当地随一のクラシック・カルテットであるソフィア・カルテットの共同コンサートを行います。尺八は、自然の竹から生まれた、素朴で繊細な日本古来の楽器です。「誰もが聞きやすい尺八」をポリシーとした入江氏の幻想的な演奏はこれまで世界各国の多くの人々の心を魅了してきました。今回は、尺八古典音楽、日本の名曲、ブルガリアの名曲、オリジナル曲など様々な曲をお届け致します。入江氏とソフィア・カルテットが奏でる日本とブルガリアの友情のハーモニーをどうぞお楽しみ下さい。

#### 20. 平山郁夫センター主催パネル・ディスカッション

日時：12月9日

場所：未定

主催：平山郁夫センター

後援：在ブルガリア日本大使館

2011年から開始されたパネル・ディスカッション「未来への眼差し」を今年も開催します。「シルクロードの再創作—シルクロードの若者の証言」プロジェクトに関するレクチャー、シルクロード再建・研究や文化・社会分野におけるブルガリアの若い研究者、ブルガリアの研究活動の発展に関わるイニシアティブ、プロジェクト、提案などのディスカッションの他、シルクロードの国々の美術品鑑賞などを行います。

（了）